

まえがき

『真実心』では、毎年度四回(最初の「学長講話」を含めると五回)行われる宗教講座のお話を収録したものです。それらの講座のお話をまとめて冊子にし、主にその年度の卒業生に卒業記念として贈られています。

今回は第二四集ということですから、もう二四年間も続いていることになります。私が学長になってからでも、もう四回になりました。その度に学長講話で宗教や仏教に関係のあるお話をし、『真実心』の「まえがき」も書いてきましたが、元々宗教学や仏教学の研究者ではありませんし、まして真宗に親しんできた者ではありません。したから、にわか仕込みの聞きかじり、読みかじりの、浅はかな知識で、生意気な、時には間違ったお話さえしてきたように思います。でも、四年間に私なりの勉強もしましたので、仏教や真宗について少しは理解ができたように思います。この仏教系大学に学ばれ、いま卒業されようとしている皆さんはどうなのでしょうか。

宗教学（仏教学）の講義は必修になっていますから、全員がそれなりの知識が得られ、また「宗教講座」もすべての在学生在が聴講できるように同じ時間帯の授業が休講にしてありますから、全講座を通して受講した人にはかなりの知識や宗教的教養が身についたことと思います。でも、仏教も真宗もなかなか奥が深くて本当に理解することとはとても難しいように思われます。

この冊子の表題にある「真実心」という言葉も分かったようで分からない難しい言葉ではないでしょうか。私は以前これを「真実を求める心」とか「真実を見つめる心」とかに置き換えて考えると分かり易いのではないかと書いたことがあります。でもそれは「真実心」ではありません。「真実心」とは「廣大無辺の至心なり」というのが親鸞聖人のお言葉ですが、それはこの宇宙の一切を貫いている「絶対の心」あるいは「超越の心」ではないかと今は思っています。私達は、相對の世界・有限の世界に住んでいますから、見たり、聞いたり、感じたり、主に私達の五感で認識することのできるものしか存在していないように思いがちですが、それらを「有」（物質）の世界であるとすれば、それらを包摂する「無」（非物質）の世界（宇宙）が広がっ

ており、そこに本当の心（真実心）が存在しているのではないか、などと思っているのです。

ここでも話が難しくなりましたが、そういう仏教の奥の奥にある哲学的なことは抜きにして、この『真実心』に収録された宗教講話の数々から、皆さんがこれから世間の荒波にもまれて生きて行く際の指針を学びとっていただければ、幸いに思います。宗教講座に出席してお話を聞いている人は、もう一度それを思い出しながら読んでみればよりよく理解できるでしょうし、出席しなかった人はより新鮮な意味を読み取ることができるとは思いません。

この『真実心』が人生の指針として大いに活用されることを期待して攔筆します。

京都光華女子大学・
同短期大学部

学長 高木英明